

次の文章は木下是雄著の「理科系の作文技術」(中央公論新社刊)の一部である。この設問の文章を読んで下記の問題に答えなさい。

主題をはっきりきめたら、次に、自分は何を目標としてその文書を書くのか、そこで何を主張しようとするのかを熟考して、それを一つの文にまとめて書いてみることを勧める。

そういう文を目標規定文ということにしよう。これは私の新造語だが、英語のシーセス(thesis)がこれに近い。シーセスは、コーベットによれば、

主題に関してあることを主張し、または否定しようとする意思を明示した文(センテンス)

である。

たとえば、学生が「日本の春は寒くなりつつあるか?」という課題でレポートを求められたとしよう。彼はまず、過去60年間の気象データを調査して、ここ10年間の春の気象のデータをそれ以前のものと比較する。この種のデータには年ごとのかなり大幅な変動が付きものだが、そのことを考慮して統計的な検定をこころみてもやはり、「平均的にみると、ここ10年間は、春先に暖かくなりはじめる時期がおそく、また春の平均気温も低い」という結論に到達したとする。そこでレポートをまとめるわけだが、そのときに、本文を書きはじめるより前に、自分がそこで主張するつもりのことを、まず、たとえば次のような目標規定文にまとめてみるべきだ—というのが私の考えなのである。(中略)

もう一つ例をあげよう。技術部員が「あき罐を資源として活用する方法」の調査研究を命じられたとする。これはなかなか大変な調査で1年以上かかるかもしれない。その報告の執筆は、調査結果を整理・熟考して、たとえば次のような目標規定文をまとめることから始めるべきである:

この報告は、「いま最も有望なあき罐利用法は、あき罐を、銅鉱山でバクテリア・リーチングによって鉱水から銅を回収する際に必要な鉄スクラップとして使うことだ」と主張するために書く。

私は、少なくとも初心者にとっては、まずこういうかたちに目標規定文を書き、それからその目標に収束するように文章ぜんたいの構想を練ることが必要だと考える。目標規定文は、執筆の途中で材料の取捨選択に迷ったときにも判断をたすけてくれるだろう。

私のこの主張は、文章を書きはじめる前に結論を出せというに等しい。「それでは順序が逆ではないか」という反論があるかもしれない。しかし、調査報告は調査が完了して結論が出てから書くべきもの、原著論文は研究が完成して結論が確立した後に書くべきものではないのか? 結論まで考えぬく前に報告や論文を書きはじめ、書きながら思い迷われたのでは、読まされるほうも右往左往せざるをえない。迷惑千万である。

問 1

筆者は理科系の作文技術に重要なことは何であると述べているのか。前記設問文で筆者が最も伝えたいことを一文（30字以内）でまとめなさい。

問 2

あなたが作文する場合、どのようなことに最も注意して書きますか。問 1 とは別のものを考えて一文（30字以内）で答えなさい。

問 3

藤田保健衛生大学医学部にあなたをぜひとも入学させたいと思わせる理由を述べた自己紹介文を書いてください。その際、問 1 と問 2 で述べた作文技術を有効に活用すること。（400字以内）。